

パートナー企業様とのサステナビリティダイアログ

NRIグループの環境目標に関する 協力をお願い

株式会社 野村総合研究所

サステナビリティ推進室長

本田 健司

2022年1月18日

NRI

Share the Next Values!



1 世界の環境問題について

2 NRIグループの環境目標

3 パートナー企業様へのお願い

1. 世界の環境問題について

気候変動問題

- 温暖化が進むと、どのような問題が発生するのか。



台風の大型化



氷河・氷床の溶解



山火事



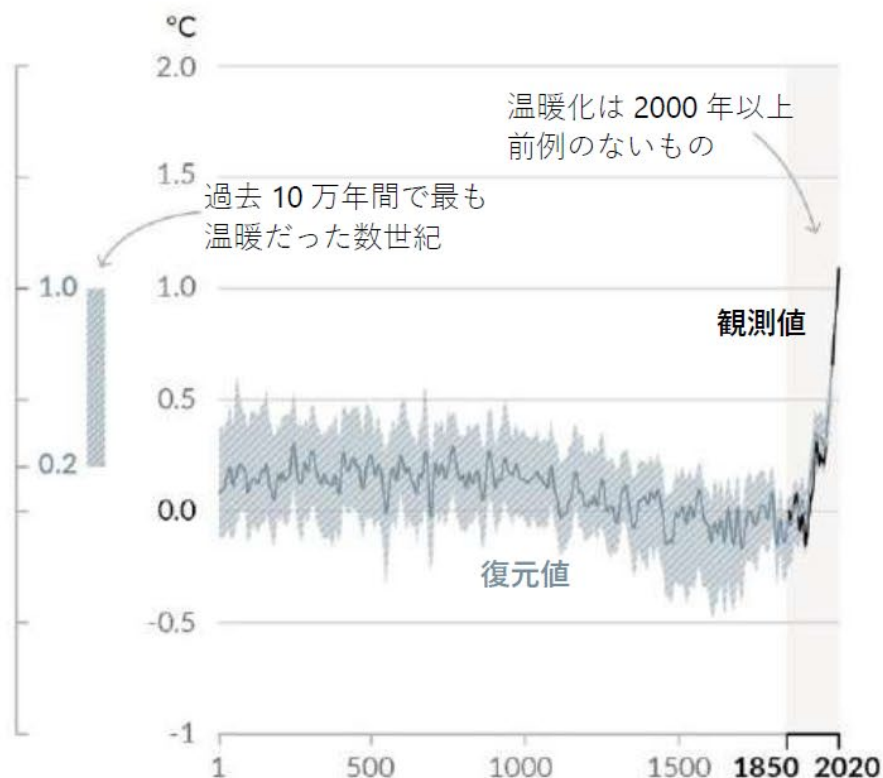
干ばつ

IPCC第6次評価報告書

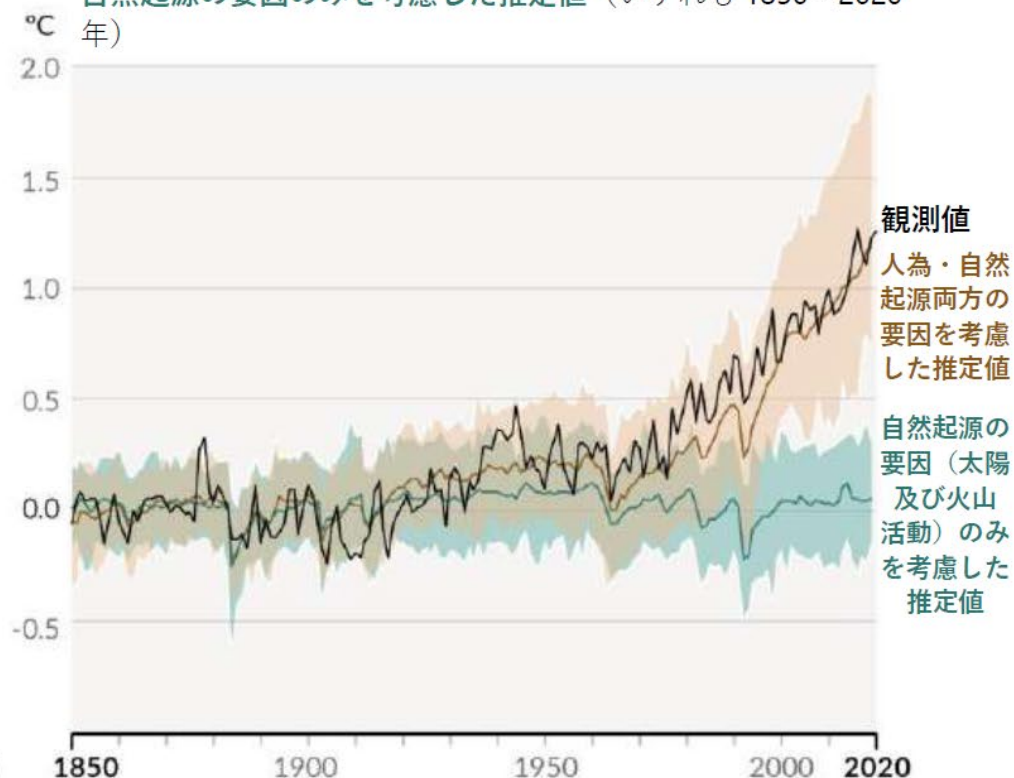
■ 人間の影響は、少なくとも2000年間に前例のない速度で、気候を温暖化させてきた。

1850～1900年を基準とした世界平均気温の変化

a) 世界平均気温（10年平均）の変化
復元値（1～2000年）及び観測値（1850～2020年）



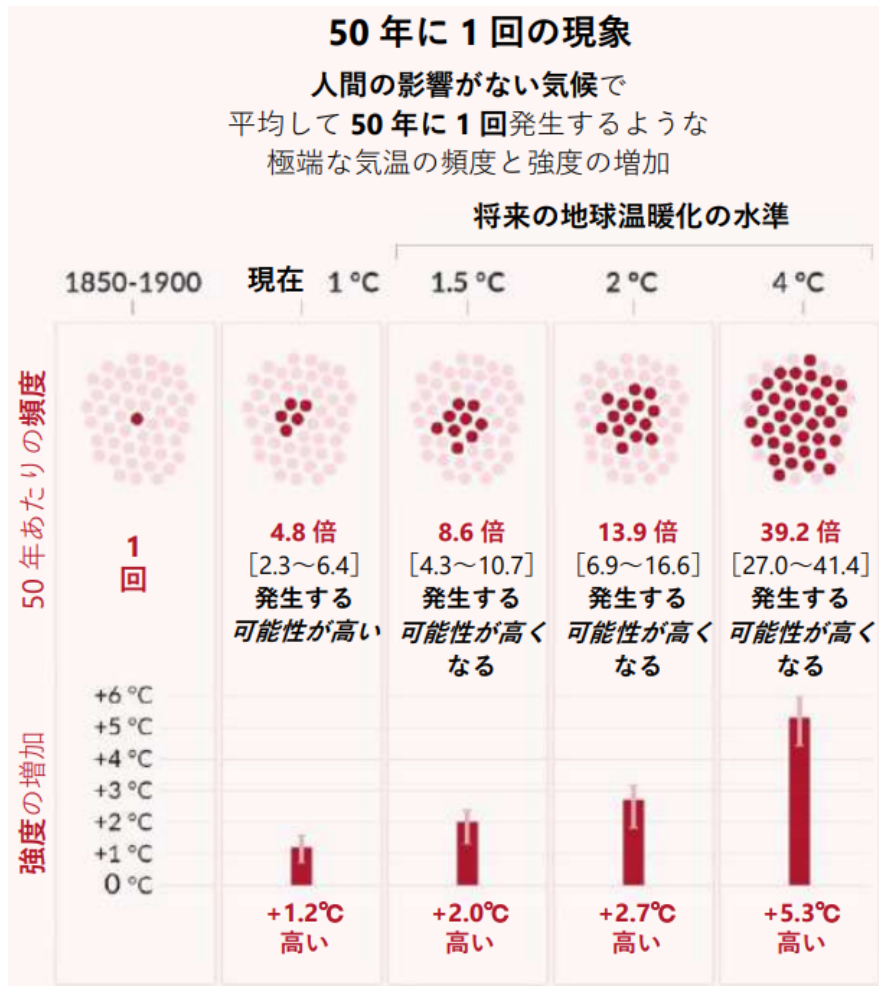
b) 世界平均気温（年平均）の変化
観測値並びに人為・自然起源両方の要因を考慮した推定値 及び
自然起源の要因のみを考慮した推定値（いずれも1850～2020年）



IPCC第6次評価報告書

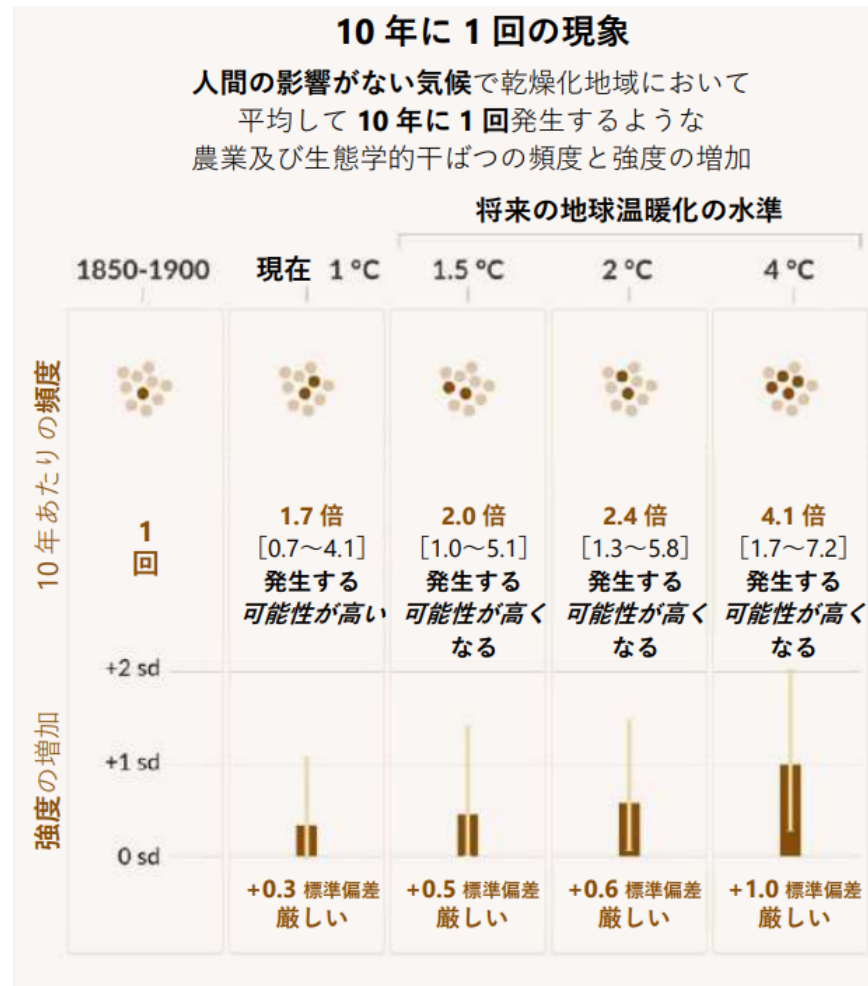
■ 極端な高温

地球温暖化により、極端な高温が発生する頻度が、現在に比べても、2°C上昇では3倍近くになる。(1.5°Cでは2倍近く)



■ 乾燥化地域における干ばつ

地球温暖化により、乾燥化地域における干ばつの頻度が、現在に比べても、2°C上昇では2倍弱になる。

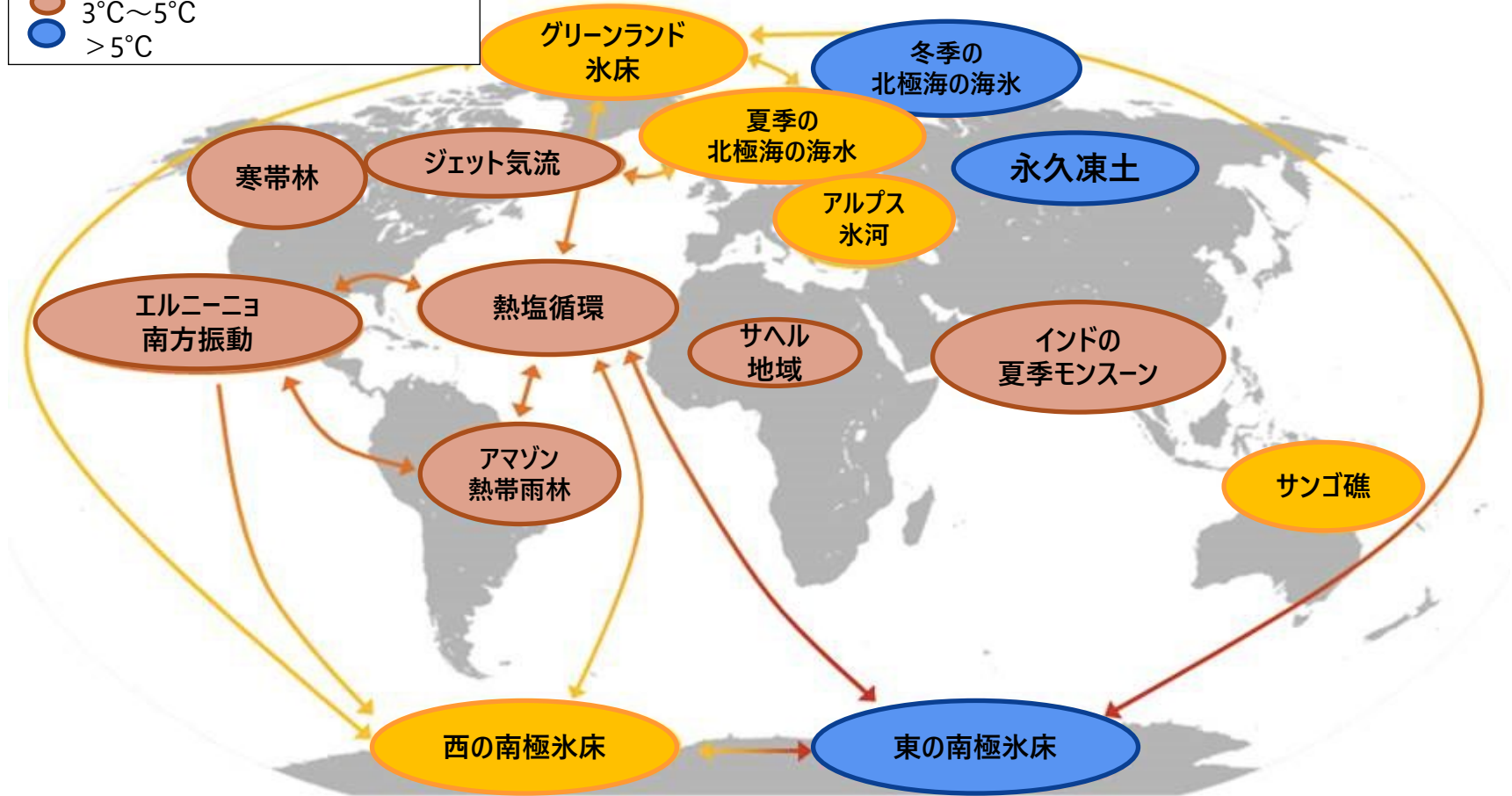


1. 世界の環境問題について

ホットハウス・アース (Hothouse Earth)

ティッピングポイントに達する恐れのある
気温上昇範囲 (産業革命前比)

- 1°C~3°C
- 3°C~5°C
- >5°C



出典：Stockholm Resilience Center 「Planet at risk of heading towards "Hothouse Earth" state」

<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2018-08-06-planet-at-risk-of-heading-towards-hothouse-earth-state.html>

1 世界の環境問題について

2 NRIグループの環境目標

3 パートナー企業様へのお願い

環境目標をSBT2°CからSBT1.5°C目標に改定

- NRIグループは、2018年9月にSBT2°C目標の認証を取得
- 2021年2月にさらに野心的な目標に改定してSBT1.5°C目標の認定を取得

SBT1.5°C認定取得に向けた修正点

区分	2030年度目標*		2050年度目標
	SBT 2°C目標 (旧)	SBT 1.5°C目標 (新)	
Scope1+2	NRIグループの 温室効果ガス排出量 55%削減 (2013年度比)	NRIグループの 温室効果ガス排出量 72%削減 (2013年度比)	NRIグループの 温室効果ガス排出ゼロ 再生可能エネルギー利用率 100%
	データセンターの 再生エネルギー利用率 36%	データセンターの 再生エネルギー利用率 70%	

区分	2023年度目標
Scope3	<ul style="list-style-type: none"> ✓ NRIグループのサプライヤーの70%以上がSBT水準の環境目標を設定 (対象: Scope3のカテゴリ1、2、11) ✓ 従業員の出張及び通勤に関する排出量を25%削減する (対象: Scope3のカテゴリ6、7)

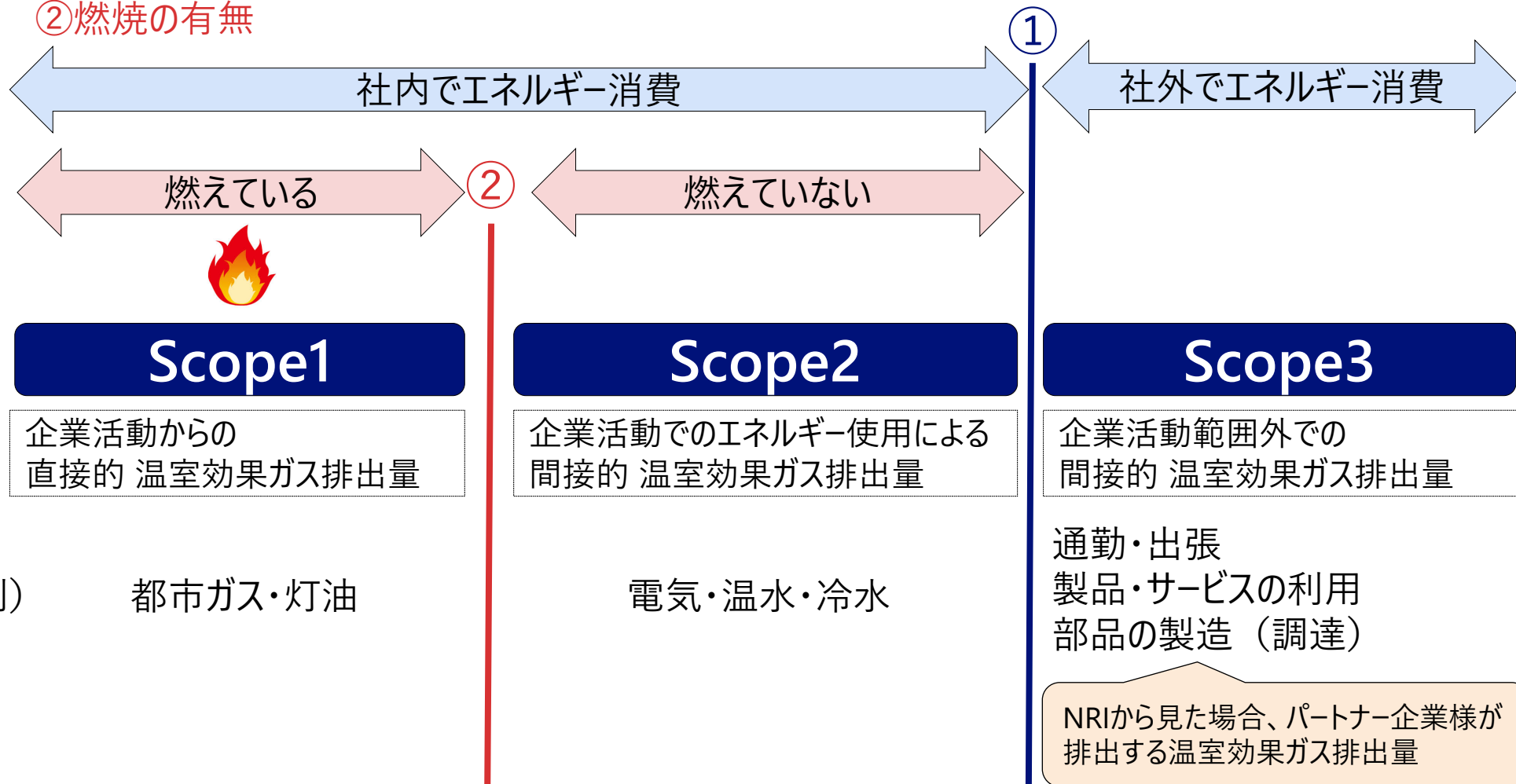
* SBTの規定で目標年は提出時点から最短5年、最長15年以内に設定する必要がある。

(参考) 温室効果ガス排出量のScope1、Scope2、Scope3とは

■Scope1、Scope2、Scope3の定義を理解するポイント

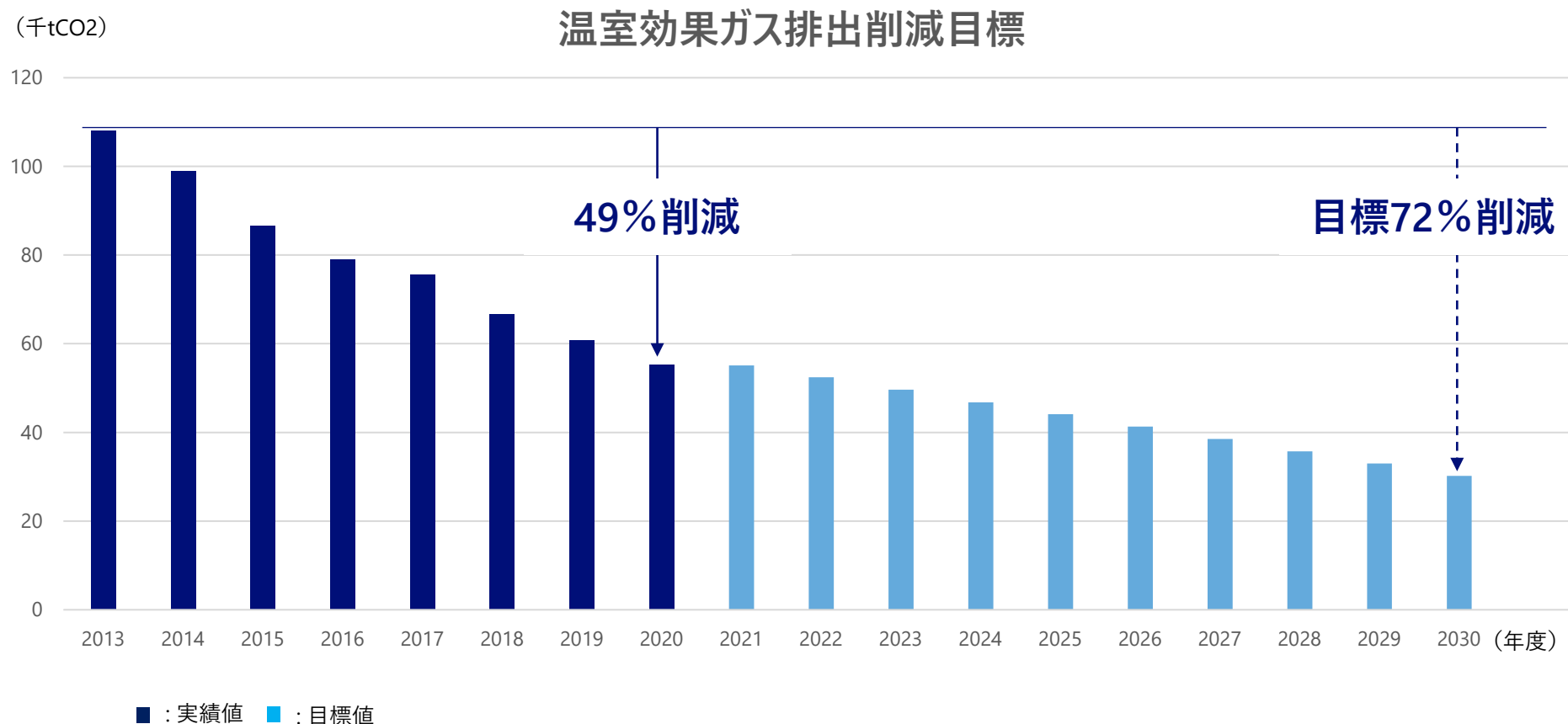
①エネルギー消費場所の違い

②燃焼の有無



温室効果ガス排出量削減目標に対する進捗状況

- 環境性能に優れた新しいデータセンターへの移行等により、2020年度に温室効果ガス排出量を49%削減
- 2030年度の温室効果ガス排出量を72%削減に向けて、再生可能エネルギー由来の電力の調達を進めている。
- 野心的にサプライチェーンの温室効果ガス削減も含めた環境目標達成の前倒しも継続的に取り組む。



1

世界の環境問題について

2

NRIグループの環境目標

3

パートナー企業様へのお願い

環境目標に関するパートナー企業様へのお願い

パートナー企業様はSBT基準に沿って環境目標を2023年度までに設定してください。

以下に大まかな手順を示します。

1. 温室効果ガス排出量の測定

- 自社の温室効果ガス排出量を測定されていないパートナー企業様は、オフィスの電気使用量等から温室効果ガス排出量を算出してください。

2. 環境目標（温室効果ガス排出量削減目標）の策定

- SBT基準に沿った環境目標を機関決定してください。
- SBT基準に沿った環境目標を設定するには下記の項目を定める必要があります。
 - ① 基準年（排出量算定データが利用可能な直近年、あるいは目標が提出された年）
 - ② 目標年（目標年は公式提出時点から最短5年、最長15年以内）
 - ③ 温室効果ガス排出量の削減率（基準年の排出量を基準とした目標年での削減率）①②の情報と、「部門」、「基準年における排出量実績」、及び「基準年における施設の延床面積（㎡）」をSBTの目標設定ツール*に入力すると最低限必要な削減率が算出されます。

* 環境省日本語サイト：https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/intr_trends.html#no07

* SBT英語サイト：<https://sciencebasedtargets.org/step-by-step-process#develop-a-target>

* 中小企業版SBT申請：https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/tools/SME_Target_Setting_Letter_ver_1.pdf

* 22年7月15日からSBT目標の設定要件が厳格化され、1.5°C水準の目標のみが審査対象となります。

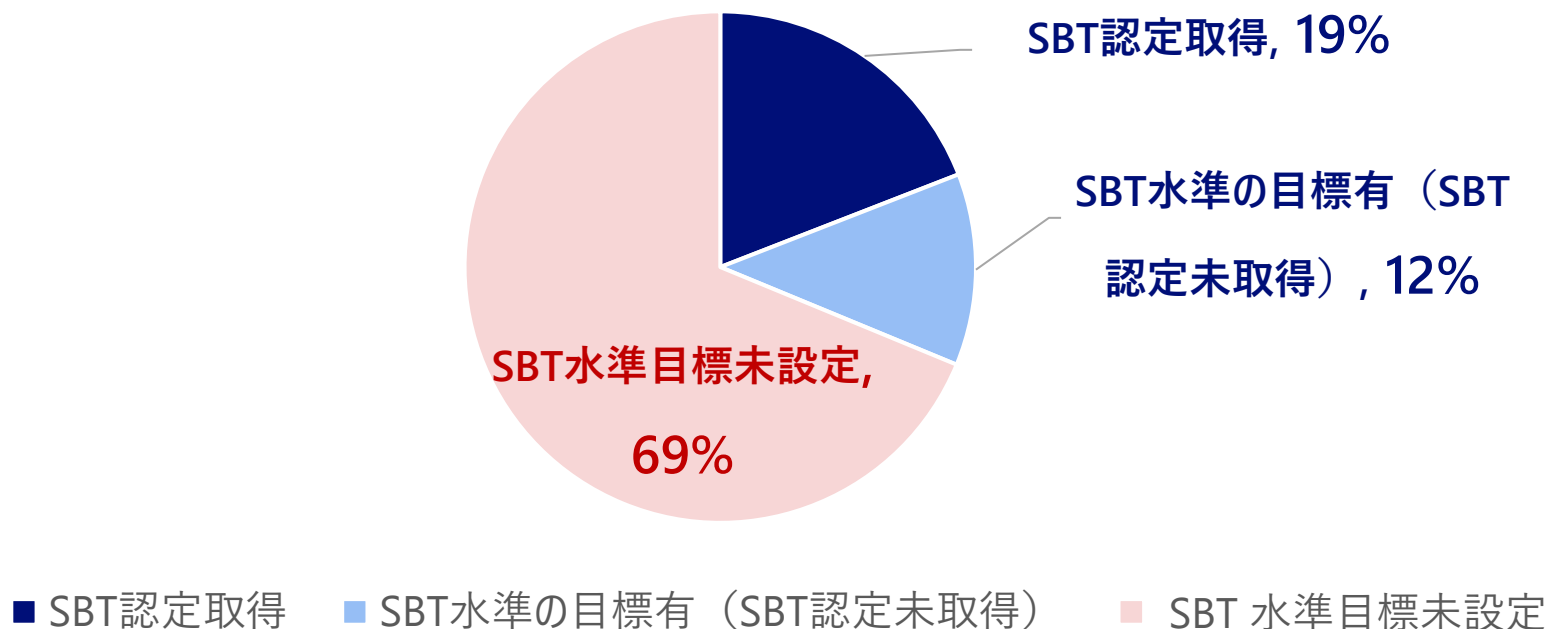
3. 環境目標の公表

- 自社のHPや統合レポート等に策定した環境目標を掲載してください。

温室効果ガス排出削減目標 設定状況

- 現時点で、SBT水準の温室効果ガス排出削減目標を設定しているパートナー企業様は、取引額ベースで**約3割**です。
- 目標設定をされていない皆さまに置かれましては、ご協力をお願い申し上げます。

温室効果ガス排出削減目標設定状況



3. パートナー企業様へのお願い

CDPサプライチェーンプログラムへのご協力をお願い

- 一部のパートナー企業様には、CDPサプライチェーンプログラムを通じた、**弊社割り当て分の温室効果ガス排出量のご回答**をお願い申し上げます。

CDPサプライチェーンプログラムとは

CDPのプラットフォームを通じて取引先から排出量を収集することで、自社のサプライチェーンの温室効果ガス排出量をより正確に把握するためのプログラム



■ ご依頼の対象となる企業（下記のいずれかに該当）

- ✓ 既にCDP 気候変動質問書に回答している企業
- ✓ 温室効果ガス排出削減目標のSBT認定を取得している企業
- ✓ SBT認定は未取得であるが、SBT水準の目標を設定している企業

NRIにご提供いただいたサービスに由来する温室効果ガス排出量等のご回答をお願いいたします。

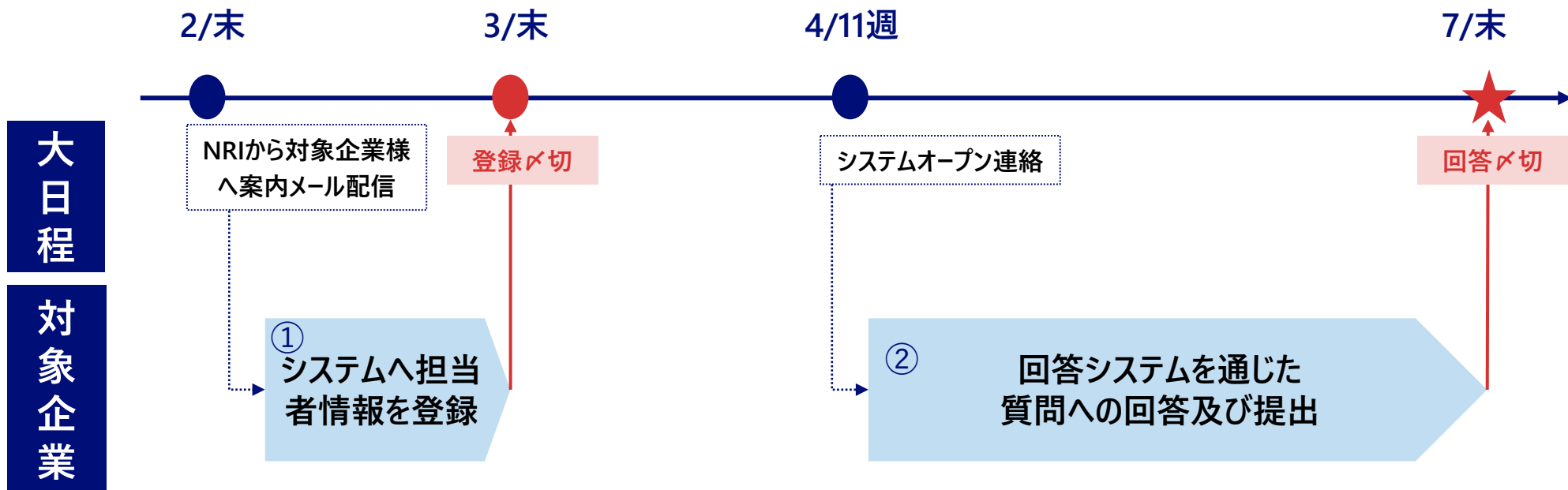
パートナー企業様の35社が対象となります。

CDPサプライチェーンプログラム 今後のスケジュール

■ ご依頼事項

- ① CDP回答システムへ担当者情報の登録（～3月末）
- ② 回答システムを通じた温室効果ガス排出量等に関する質問への回答及び提出（～7月末）

■ 今後のスケジュール



(参考) CDP2021気候変動 サプライチェーンモジュール質問内容

■ CDP2021気候変動質問書



■ サプライチェーンモジュールの質問内容 (概要)

項目	質問内容
SC0 インTRODクシヨN	<ul style="list-style-type: none">• 年間売上高• ISINコード (上場企業のみ)
SC1 顧客別排出量割当	<ul style="list-style-type: none">• 対象期間中、NRIに提供した商品またはサービスの温室効果ガス排出量 (tCO₂)• 別の顧客への排出量の割り当て課題と、課題克服のために何が役立つか• 顧客別排出量割当計画の有無
SC2 協働の機会	<ul style="list-style-type: none">• NRIと協働できる相互に利益のある気候関連プロジェクトの提案• NRIによる依頼またはイニシアチブにより、貴社は組織レベルの排出量削減イニシアチブを行うように促されたか
SC3 商品レベルデータ	<ul style="list-style-type: none">• 自社製品またはサービスに関する製品レベルのデータ提供の有無

※赤字はご回答必須項目です。

(他の項目は回答して頂かなくても構いません。)

※2022年の質問書では内容が変更になる可能性があります。

問い合わせ先

- 環境目標の策定等に関して、分からない点等がございましたら、野村総合研究所サステナビリティ推進室宛に遠慮なくお問い合わせください。

野村総合研究所 サステナビリティ推進室環境担当

担当連絡先：sbt@nri.co.jp

- パートナー企業様と一体となって、深刻化する気候変動問題と一緒に取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a gradient bar transitioning from blue on the left to red on the right. The bottom swoosh is a solid blue bar.

Share the Next Values!